

■鎌ヶ崎地区復興まちづくり計画（素案イメージ）作成にあたっての情報共有

第3回検討会においては、これまでに検討されてきた意見を「地区復興まちづくり計画（素案イメージ）」として整理しています。

ただし、複数の考え方があがる個所や関係機関との協議などにより再度検討すべき事項などを以下に整理しています。

1. 復興まちづくりを検討する前提となる津波シミュレーションの条件

これまでの検討会で津波シミュレーションの情報を発信してきましたが、国や県から復興まちづくりを検討する前提となる津波シミュレーションの条件が指示されました。

これは、多重防災型のまちづくりを進めるうえで、効果的な整備を進め、過大な施設整備を行わないためであると考えます。

●津波シミュレーションの条件

- ・ 県が決定した防潮堤が整備されている
- ・ 東日本大震災が発生した当時の潮位、および津波高
- ・ 東日本大震災による地盤が沈下した状態での地盤高

●復興まちづくりの前提となる津波シミュレーション



新計画天端高 T.P. +10.4m
地震時潮位 T.P. -0.46m

浸水深	
1m未満	1m未満
1-2m	1-2m
2-3m	2-3m
3-4m	3-4m
4-5m	4-5m
5-6m	5-6m
6-7m	6-7m
7-8m	7-8m
8-9m	8-9m
9-10m	9-10m
10-11m	10-11m
11-12m	11-12m
12-13m	12-13m
13-14m	13-14m
14-15m	14-15m
15m以上	15m以上

0 200 500

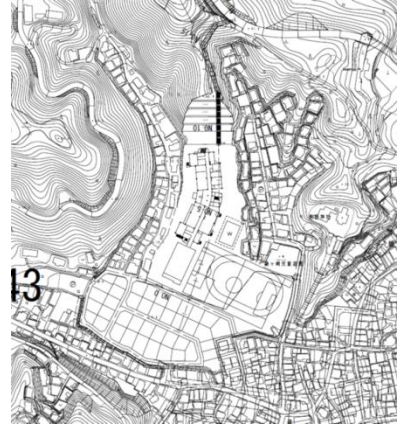
2. 鉾ヶ崎小学校北側の斜面地造成に関して

検討会において鉾ヶ崎小学校の北側斜面地を造成して、小学校を移転し、小学校跡地を宅地にするとの意見が出されました。

T.P. +10.4mの防潮堤が整備された場合の予想浸水深が浅いことと、鉾ヶ崎小学校を北側に移転させる計画案については、防災上において利点が見受けられますが、最大 40m近くを切土して造成することとなるため、極めて経済性に劣ること、さらに、既存住宅への補償問題等が生じることを考慮すると、事業実施が困難であると考えます。

したがって、素案イメージでは「鉾ヶ崎小学校北側斜面地の造成および小学校移転」は想定していません。

●造成イメージ



3. 海の埋め立てに関して

道路拡幅や船揚場確保のために海を埋め立てるとの意見があがっていましたが、現在岸壁の復旧を進めていることと、法規制の問題等もあり、長期的な取り組みにならざるを得ないことから、素案イメージでは割愛しました。

4. 避難道路に関して

① 鉾ヶ崎小学校北側の避難道路

鉾ヶ崎小学校北側の避難道路に関して、上記と同様の理由により、斜面地の造成が難しいため、素案イメージでは、既存道路を活用した線形が現実的であると考えます。

② 国道45号につながる避難道路に関して

第1回検討会では港湾から「国道45号へ直接つながる避難道路として橋やトンネルの整備」との意見が出されていました。

建設コストが膨大なものとなるため、素案イメージから割愛しました。

